

キジバト

支笏湖畔の緑地でキジバトに出会いました。忙し気に首を動かして地面に落ちた樹の小さな花をついばんでいるように見受けました。画像には2016年5月26日15時24分と記録されました。九州や東京でも見たことがありますように、分布は日本全土に及びますが、冬の北海道では見かけません、本州の雪の無い地方に移動することです。命名の由来は体色が雌キジに似ていることらしいです。頸の左右に小さな面積ですが、青と白の縞模様が特徴です。



多摩市に住んでいたとき、五階建のマンションに挟まれた緑地のフジ棚で抱卵しているキジバトに近づいたことがありました。親鳥は私の接近に逃げることなく、赤い目で睨みつけられましたので、引き下がることにいたしました。小鳥の巣の精巧さには感動させられますが、キジバトの巣は樹上に巣を作る鳥のなかでは驚くほどの雑な作りなのです。空の巣を下から見るとすけすけなのです。図体に比べて巣の直径も小さいと思います。そこに2個の卵を産み雛を育てるのですが、小鳥と同じように孵化してほんの2週間ほどで巣立ってしまいます。ハトの給餌はいったん飲み込んで半分消化したのを吐きもどして口移しに与えます。雑食性はかなり強く、植物由来が主体ではありますが、虫やミミズ等動物性も採食します。



同じ多摩市でのハプニング、ある日散歩で谷間の小さな水田の畔道でキジバトを踏んづけそうになりました。まだあえいだ息をしていました。頸の根元に大きな傷口があり、血がしたたっていました。助けようもないことは一目でわかる状態でした。オオタカに捕まって餌食にされる寸前だったと見受けました。捨てるのも勿体ないので家に持ち帰り味見してみることにしました。野鳥の数種類は子供時代にハジキ罟などで捕獲し食べた経験から、旨さを承知していましたので、羽をむしって焼いて食べました。家人には野蛮人だとののしられましたが、無視でした。



鳴き声は澄川森林でもしばしば聞こえます。デデポツポと聴きなし表記されまして、ポピュラーなのですが、声の主を視認することは大変難しいのであります。

この回、支笏湖国営林の林道沿いに風倒木がかなり散見されました。まだ緑の葉をつけたままなのでつい先日の強風に倒されたようです。ブンブンの森見回りへのアプローチでご覧の画像のカラマツの倒木に邪魔されて車で通り抜けることができません。歩きで通過することになった次第でありました。